

---

## 第1回 ごみ処理基本計画策定検討専門部会 議事録（要旨）

---

- 1 期日 令和5年3月31日（金曜日）15時00分から17時00分まで
- 2 場所 古賀市役所 新庁舎2階 フリースペース（旧 環境課事務所）
- 3 出席委員（4名）

部会長	島岡 隆行	委員	小林 智美
委員	渡邊 裕子	委員	武田 京子
- 4 欠席委員（2名）

委員	上杉 昌也	委員	花田 徳弘
----	-------	----	-------
- 5 傍聴者数 なし
- 6 事務局出席者職氏名

環境課長	吉永 ゆかり	橋爪 恵里
資源循環推進係長	大江 純一	
- 7 一般財団法人九州環境管理協会出席者職氏名

環境計画課	藤原 佐保子	環境計画課	真玉 明子
-------	--------	-------	-------
- 8 議題
  - ・基礎調査に関する中間報告
- 9 配布資料

（事前配布）	・次第
	・第3次古賀市ごみ処理基本計画の策定について【資料1】
	・市民アンケート調査結果について【資料2】
	・事業者アンケート調査結果について【資料3】
	・ごみ処理実績（進捗指標の推移等）【資料4】
	・ごみ組成調査の結果について【資料5】
（当日配布）	・次第（事前配布の差し替え）

## 概要

---

### 1. 開会あいさつ

---

- ・環境課長よりあいさつ。

---

### 2. 委員紹介

---

- ・ごみ処理基本計画策定検討専門部会委員（部会長挨拶後に、各委員より自己紹介いただく）
- ・事務局（古賀市担当者、委託業者の紹介）

---

### 3. 第3次古賀市ごみ処理基本計画の策定について

---

- ・事務局（古賀市）より説明【資料1】。

---

### 4. 議事（基礎調査に関する中間報告）

---

#### （1）市民アンケート調査結果について【資料2】

#### （2）事業者アンケート調査結果について【資料3】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○ 渡邊委員：古賀市の人口の年代別の割合や小学校区別の人口割合は把握しているのか。アンケートの回収データは、これら人口比率に対応した回答のバランスとなっているのかが気になる。

● 事務局：古賀市としての年齢比率、校区ごとの人数データは把握できているが、アンケート調査で得られたデータの比率との整合は確認できていない。次回資料を準備する。

○ 島岡部会長：調査結果が偏ったデータとなっていないかの確認は必要。アンケートで得たサンプルの特性を把握した上で結果の考察を行う必要がある。年齢層や小学校区の人口割合がアンケート結果の割合と合致していればよい。

○ 渡邊委員：p8問4で、ごみの分別を「徹底してやっている（26.5%）」と回答した人も合わせて、p9問6の今後、ごみの量を削減できるかの設問に回答している。その結果として「削減が難しいと思う（35.1%）」となっているが、「徹底してやっている」から「削減は難しいと思う」という判断で回答したと捉えてよいか。

● 事務局：問4と問6は条件設定等を行わず、関連させずに個別に聞いている。「徹底してやっている」から「削減は難しいと思う」という考えで回答された方もいると思うが、断定できない。

○ 渡邊委員：p12問10のごみの削減やリサイクルへの取り組み状況を問う設問において、「期限切れ間近の食品をフードバンクへ寄付」は実施率がかなり低い。期限切れを出さないように普段から意識して家庭内での買い物や消費に心がけているため、フードバンクの利用は考えてない方もいるの

ではないか。

- 小林委員： 家庭の中であれば自分の判断で消費することができる。
- 武田委員： 賞味期限と消費期限の違いなど目安となる数値はあるが、最終的に食べられるかどうかを見分けるのは経験値の差によるところも大きい。若い人ほど数字に頼る傾向にある。
- 事務局： 「食品ロス」は近年の大きな課題である。次期の計画で展開できればと考えている。
- 渡邊委員： フードバンクに関して言えば、小売店などお店の方が積極的に利用すべき取組ではないかと思う。
- 小林委員： これまで（10年）で行われてきた市の施策に関する振り返り資料が拝見できていないので判断できないが、アンケート結果からは「情報がほしい」、「抛り所となる拠点してほしい」との意見が多い印象である。周知徹底のための取組の実績・評価があれば検討の材料ができる。また、古賀市の高齢化の状況が気になっている。高齢化率や年齢構成が分かれば今後必要となる取組の検討にもつながるのではないか。
- 事務局： 施策の振り返り、年齢、世帯の構成比などの資料はそろえる。また、高齢化率は把握しているので次回示すことができる。
- 事務局： 令和2年度の国勢調査によると、古賀市の高齢化人口は28%になっている。分布状況を見ると山側の地区では高くなっている。
- 渡邊委員： 自治会の加入率が少ないのではないか。自治会に加入していないと地域の分別収集に出せないのか。
- 事務局： 自治会によって違う。
- 島岡部会長： 古賀市はステーション方式なのか。
- 事務局： 分別収集はステーション方式、可燃ごみは個別収集している。
- 島岡部会長： 高齢者の方から資源ごみを個別に収集してほしいとの要望は出ていないか。
- 事務局： 分別ごみの持参が大変という方がいる。令和5年度からはふれあい収集（可燃ごみ）を行う。
- 渡邊委員： 福祉課が対策を行っているのではないか。
- 事務局： 福祉課と連携して行う。分別収集に行けない方にはシルバー人材センターのワンコインサービス等で対応してもらっている。
- 島岡部会長： プラスチック製品の回収は方向性を示して具体化しないといけない。
- 事務局： プラスチック新法ができたことで令和4年度実証実験を行い、課題（ヤード、分別レーン、圧縮機械等）が見えてきた。清掃工場に推進室ができ、報告書もまとまってきたので今後、検討していく。なお、プラスチック製品の収集は簡単にできるが、リサイクルを実際に行うには課題がある。今後、数年かけて方向性を探っていくことになると思う。
- 島岡部会長： プラスチック製品に関する基本的な方針等は計画書に入れなくてもよいか。
- 事務局： 見えない部分が多くあるため、書きぶりについては検討する。

- 島岡部会長： 全国共通の課題と古賀市の課題を整理しておくといよい。
- 事務局： 5年ごとに見直しがあるので将来的に盛り込むことができればよいと思っている。
- 島岡部会長： アンケートに WEB 版のフリーマーケットの利用意向を問う設問があるが、そのようなアプリがあるのか。
- 事務局： まだない。利用の見込みがあれば、今あるアプリとタグを組むなどで対応することを考えている。
- 渡邊委員： アンケート結果より事業者の方に情報が届いていない印象を受けた。
- 小林委員： 事業所の方々に情報発信はしているのか。
- 事務局： 多量排出事業者には毎年訪問している。リサイクルの方策、福岡県が行っている取組、優良事業所の紹介はしているが浸透していない。
- 小林委員： 年末の忙しい中回答してくれた事業者は意識が高いのではないか。どちらかというと、回答のなかった事業者が問題である。情報提供しても窓口のみの認識で会社全体に行き渡っていないことが考えられる。
- 渡邊委員： トップダウンが大切ではないか。話をする対象を経営者等に絞ると進んでいくのではないかと思う。
- 島岡部会長： 事業系一般廃棄物は古賀市が収集しているのか。経年変化は把握しているのか。
- 事務局： 事業系一般廃棄物のデータは収集業者からいただいております、把握している。資料4に示している。
- 島岡部会長： 有料化されているのか。
- 事務局： ごみ袋代を徴収する形で有料化している。
- 島岡部会長： 優良事業所認定制度は個別に案内しているのか。
- 事務局： 企業訪問の際に行っている。
- 島岡部会長： 優良事業所認定制度を「知らない」との回答が多いのは、優良事業所に選ばれた後のメリットがないからか。
- 事務局： 賞状しかない。
- 渡邊委員： 認定されたら広報にでるのか。
- 事務局： 広報とホームページに出る。
- 島岡部会長： 古賀市内にはリサイクル事業者はあるのか。
- 事務局： ある。
- 島岡部会長： 古賀市内のリサイクル事業者で足りているのか。
- 渡邊委員： リサイクル事業者は限られている（廃油）。古紙は回収業者だけで資源化はしてない。
- 島岡部会長： 福岡県内の事業者リストを集めることができるので、市から提供するのもよいのではないか。

(3) ごみ処理実績（進捗指標の推移等）【資料4】

(4) ごみ組成調査の結果について【資料5】

・配布資料に基づき、事務局より説明。

・質疑・応答。

- 島岡部会長： 玄界環境組合でも定期的にごみの組成調査はされているのではないかと。今回調査ではサンプルの量が少ない気がする。市の傾向が把握できているか、古賀市以外のごみの搬入も含まれるかもしれないが、玄海環境組合のデータと照らし合わせてみてほしい。
- 事務局： 玄界環境組合でも組成調査を実施している。データは確認する。
- 島岡部会長： ごみ組成調査結果に示す湿組成は水分を抜いた後の割合になっているのか。
- 事務局： 水分が入った状態で計量したものを100%としたときの割合になっている。
- 渡邊委員： 資料4のp4で「直接搬入ごみ量」が増えているのはコロナの影響ではないかと考える。
- 武田委員： 断捨離で増えていることが考えられる。
- 渡邊委員： 現行計画の減量化目標である「1人1日当たりごみ処理量」（平成24年度と比較して令和5年度に約120g削減）は達成される見込みがないと判断してよいか。
- 事務局： 資料4に示す指標は、「ごみ総排出量」を示すことから、「ごみの処理量」とは異なる。明確な判断はできないが、参考としてほしい。
- 渡邊委員： 資料4p11の「福岡県内市における1人1日当たりごみ排出量の状況」で同じ玄海環境組合に所属する古賀市と福津市の資源ごみ量に差があるのは何故か。
- 渡邊委員： 剪定ごみの量が違う。福津市は剪定枝を回収している。古賀市は家庭系ごみ量の中に剪定枝が入っている。
- 小林委員： 古賀市では可燃ごみ袋に剪定ごみだけ入れて出しているのを見かける。
- 武田委員： 戸建てが多いと剪定枝が出るのは事実。畑の草をごみとして出さずに堆肥化しているところもある。堆肥化への指導も必要ではないか。
- 事務局： データについては精査する。
- 武田委員： 舞の里で行っていた生ごみ回収普及のモデル事業を展開していくつもりはあるか。
- 事務局： コロナの影響等で思うような成果が得られなかった。生ごみ回収もストップしている。
- 小林委員： 資源化率の低下の原因として、市が把握できない資源化のルートがあるとのことだが、スーパー等に出しているプラごみは概算でも推定できないか。全体量がつかめなくても市民アンケートで利用している人の割合が把握されているので、このあたりをうまく記載してほしい。
- 事務局： プラごみ、段ボールもスーパー等に出されており、これらの値を含めれば、資源化率もかなり変わると思う。研究はしたいと思うが正直難しい。

計画には今後の削減の展望として書き込んでいきたい。

- 小林委員： 福津市の不燃ごみが少ない。回収の仕方がうまくいっているのかもしれない。
- 事務局： 集計の出し方を比較することで課題が見えてくる可能性がある。
- 島岡部会長： 福津市で回収した剪定枝は市の方で堆肥化されているのか。
- 事務局： 業者に持ち込んでいる。
- 島岡部会長： 組合の外でやっているのか。
- 事務局： 清掃工場とは別の場所で行っている。
- 島岡部会長： 古賀市ではリサイクルに関する民間企業の情報を把握しているか。民間で回収している所が少なければデータをいただくこともできる。
- 事務局： データをいただけるのであれば参考資料となる。
- 渡邊委員： エコロの森に搬入されている 1 人 1 日当たりごみ排出量も古賀市は多い。
- 小林委員： ごみ分別に関する情報の周知が徹底されていないのと、高齢化が進行し、自力で集団回収に持ち込みできないなどの不便さが問題ではないか。
- 島岡部会長： 事業系のごみも原因になっているかもしれない。事業系も推移を見て議論しないといけない。
- 事務局： 総排出量には事業系は入っている。減少傾向にある。
- 渡邊委員： みやま市は廃棄物量が少ないようだが、紙おむつも資源化しているのか。
- 事務局： みやま市は先進的であり、色々なものを資源化している。
- 島岡部会長： 資源化量は何とかして増やさないといけない。⑥集団回収が少ないのは行ってないからか。
- 渡邊委員： 各地域（月 1 回）、市役所、エコロの森（月 3 回）でも行っている。
- 島岡部会長： 段ボールも回収しているのか。
- 事務局： 段ボールは育成会や自治会独自で回収している。
- 渡邊委員： 福津市も同じなのか。
- 事務局： 同じ。
- 島岡部会長： 集団回収で集められるリサイクル品はどのようなものか。
- 渡邊委員： 缶、ビン、陶器、牛乳パック、プラスチック製品等がある。
- 島岡部会長： 集団回収は段ボールや新聞紙のイメージがあるが対象となっているか。
- 事務局： 地域から報告をいただき、データにも含めている。資源化率が減っている原因は紙のペーパーレス化等もある。
- 渡邊委員： 過去の集団回収率は高かったのか。
- 事務局： 高かった。
- 武田委員： 若い世代は新聞を取らないので紙の使用量が少ない。
- 小林委員： 逆に若い世代は通販を利用するので段ボールが出るのではないか。
- 島岡部会長： 原因を突き詰めてもらいたい。
- 渡邊委員： 紙類の湿組成比率が高いのは紙おむつ等が入っているからなのか。

- 事務局：紙類の項目は湿組成と乾組成の差があまりないので水分はほとんど含まれておらず、元々の重さに近い数値となっていることが考えられる。逆に厨芥類は水分が多いので差が出ている。
- 島岡部会長：100～200 kg集めて縮分して26 kgなのか。サンプル量が少ない。
- 事務局：4各地区の合計で100 kg。
- 島岡部会長：どのようにサンプリングしているのか確認してもらいたい。
- 渡邊委員：紙類は内容によって分別できる（資源化できる）。若い世代に分別情報が浸透していないのではないか。
- 事務局：雑紙についての周知にはのびしろがあると思っている。
- 島岡部会長：雑紙は集めていないのか。
- 事務局：集団回収の品目として取り扱っている。個人個人が雑紙として出せることが分かっていない。
- 島岡部会長：雑紙回収はいつから始めたのか。
- 渡邊委員：プラ分別と同時に始めて、福岡市よりも早い。
- 島岡部会長：雑紙には個人情報も入りがちで扱いにくいこともあるかもしれない。
- 小林委員：マンションの方々はポストイング量が多いはず。こういったものも回収できれば、資源化率の向上につながるかもしれない。
- 渡邊委員：マンションで回収しているところもある。
- 島岡部会長：原因がわからないと対策が打てない。次回の会議で現行計画に関する実績評価の資料の提示をお願いしたい。

---

## 5. その他

---

### <事務局からの連絡事項>

- ・今後、指摘いただいた資料については準備する。
- ・第2回目は6月を目途に、指標、施策の方向性について議論いただきたい。
- ・第3回目（最終回）は11月か12月をめどに、パブリックコメントを反映した最終の計画案について議論をしていただきたい。
- ・報酬・費用弁償の支払いは、後日指定口座への振り込みを行う。
- ・議事録は誤字脱字等を調整し、会長の承認を得たうえで議事録の決定とする。

---

## 6. 閉会

---